# 15 いつもみんなで力を合わせることを大切に、必要なものはみんなで創る！

浅雛（あさひな） みね子（社会福祉法人新よどかわ）

## 多くの仲間たち、保護者や地域の人々に支えられて……◆

ちょうど五〇年前、長男を出産したばかりの私は、正月早々、保育所探しに途方にくれていました。知人から教えられた定員一二名の小さな「さつき共同保育所」にたどりつきホッとしたのもつかの間、その「共同保育所」が働いてくれる人を探していたのです。「人とかかわる仕事がしたい」と思っていた私は、無鉄砲にもやってみようと考えて、保育士資格はありませんでしたが、長男と一緒に通園することになりました。

ようやく共同保育所での仕事がつかめてきた三月、いろいろと教えていただいた先輩保育士の一人が、公立保育所への就職が決まり退職。三か月後にはもう一人の保育士が結婚退職、残ったのは私だけという事態になりました。しかし、保育はつづけなければなりません。保護者や地域の人々と一緒にがむしゃらにこの局面を乗り越えたことで、共同保育所のことが少し理解できました。

一九七二年に大阪保育運動連絡会がまとめたパンフレット「大阪の共同保育」に書かれていた言葉が今も忘れられません。ちょっと長くなりますが、紹介させていただきます。「国と地方自治体の保育政策がどんなものなのか、その証人が共同保育所である。共同保育所はその『生い立ち』から国と自治体の保育政策の告発者の立場に立っている。共同保育所の保母たちの中で『やめよう』と思わなかったものは一人もいない。父母たちの中で『こんな苦労をしてまで』と悩まなかったものは一人もいない。こうしたいまにも壊れそうなものが、どうして運営し続けられたのであろうか。（中略）働かざるを得ない、働き続けたい父母たちと、働く母親と子どもたちの権利を守ることを願う保母たちとが同じ仲間であり、ともに手を取り合ってたたかって生きなければならなかったところに頑張り続けられた根本の理由があった。私たちは、国と自治体の保育政策を裁いてから証人台を降りたいと思う」。

この思いに出会い、共同保育の仲間たちと出会い、ここで生きたいと思いました。その後、一九八〇年から大阪保育運動連絡会の専従になって、大阪府全体の保育運動にかかわるなかでもたくさんの出会いがあり、この仕事のなかで出会った人たちや学んだことがなによりの宝物であり、今を支えてくれていることを実感しています。

## 保育内容、施設の充実等を求めて、認可へと発展◆

二〇〇一年に誕生した小泉首相は、安上がりの女性労働を確保するために、「待機児童ゼロ作戦」を推進しました。大きな目玉として打ち出したのが認可保育園の建設費の一〇分の一〇を国庫負担するという制度でした。これを活用して共同保育所の認可園建設にとりくむ大きな運動が提起され、大阪中の共同保育所が認可保育園づくりに挑みました。

淀川区でもさつき共同保育所が認可保育園づくりにとりくみました。共同保育のOBや地域の人たちの大きな協力に支えられて、なんとか六七坪の土地を確保し、二〇〇二年、社会福祉法人新よどがわの設立認可とゼロ歳から二歳までの乳児保育園、つくしんぼ保育園の建設を実現させることができました。その後、保護者の希望を受けて二〇一〇年、五歳児までの保育を実施するつくしんぼ西保育園を建設し、翌年には公立保育所の民間委託を受けて、現在では三園を運営しています。

## 子どもの未来を拓く保育を……◆

二〇一二年度から理事長を引き継いでいます。地域の人々のさまざまな要求にこたえ、地域と連帯し、必要とされる社会福祉法人としての役割を担っていきたいと思っています。地域要求は多様で、まだまだ手が届かないということも実感しています。地域からあてにされる法人をめざして模索しているところです。

また、保育園は人材不足に直面しています。次代を担う若い人たちに保育の魅力を、人を育てる仕事の醍醐味を伝えたいものです。そして、戦争のない、平和で、子どもたちが命を輝かせることのできる美しい地球を、未来に手渡すために挑みつづける社会福祉法人でありたいと願っています。